

パトロールグループ



果樹グループ

◆ 観察路

菊川 年明

本会がならやまへやってきた当時は、山中に道らしいものはなく、わずかに踏み跡のようなものが途切れがちに南北に1筋続いているだけでした。そこを通るのはたいへん心細く、南の端、現在谷道の赤岳口と名付けている付近に辿り着けたときには「バンザイ」と叫びたくなるような心地でした。

やがてパトロール班が発足し、道（観察路）つけが始まりましたので、山中で不安になるようなことはなくなりました。しかし、樹木がうっそうと繁っていて暗く、朽ちた倒木がそこかしこという状態でした。今のように道が縦横につながるのはもう少し後のことです。

ほどなくカシノナガキクイムシの襲来があり、コナラが次々に被害を受け、倒木が続出しました。このような状態が5年ほど続いたのではないのでしょうか。木がたくさん倒れたので、その結果として空が見えるようになり、陽光が林内に射し込むようになりました。倒木は今も散発的ながら続いています。

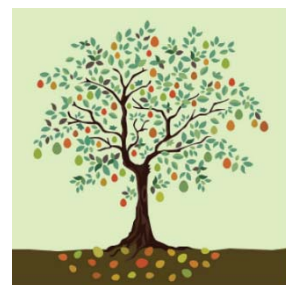
林内に光が射し込むようになった結果として地面にササがはびこるようになり、道のササ刈りに追われるようになりました。道にササや草が生えるのは歓迎できませんが、コバノミツバツツジやモチツツジがたいへん元気になり、この両種のツツジのおかげで春先から晩春まで私たちの目を楽しませてくれるようになりました。林内の植生もだいぶ変わり、これまでなかった植物が目につくようになりました。さらに皆伐地区ができていっそう明るくなりました。丸太階段の資材は、当初は応急の措置として手近にあるソヨゴなどを利用していました。しかし、腐朽が早く、修理に追われるようになり、最近では防腐処理をした資材を購入して、取り替えが進んでいます。

◆ 実りの森の一年

衣笠 博美

果樹グループに入って1年余り、コロナ自粛で出来ない日もありましたが、1年を振り返って、なんと驚きの多かったこと！

最初は筍掘りでした。真白な大きな筍がゴロゴロ、豊作の年ということもありスーパーにも並ばないような立派な筍でした。秋には栗の収穫、苗木の植え込み、初めて見るチップパーという機械で、ホコリまみれになって大きな木を粉碎したり、驚きの経験でした。冬には梅の木とブルーベリーの剪定です。古川さんに丁寧に教えていただきドキドキしながらハサミを入れたものです。春に花芽がたくさんついた時にはみんなでヤッターの歓声をあげました。ついでに5年ぶりに剪定をした我が家のブルーベリーは昨年の倍？ほどの大きな実がつけました。小鳥たちの視線を感じながら毎朝収穫しています。感謝・感謝です。



1年を通して、足元の悪い斜面の草刈り、鳥や、鹿の被害など大変なこともあります。ベースキャンプから離れていることもあり、いろんな侵入者対策が皆さんの頭を悩ませるところだと思います。めげずに夢と希望を持ち続けるグループの皆さんは格好いいです。微力ですが実りの森果樹園の実現に参加出来ること嬉しく思っています。これからもどんな驚きや感動があるのか楽しみです。

